

令和3年度 岡山県介護支援専門員研修会

ICF の理解

医療法人福嶋医院 理事長

岡山プライマリ・ケア学会 会長

福嶋啓祐

ICFとは？

「International Classification of
Functioning, Disability, and Health」
の略：国際生活機能分類

(2000年)

つまり、「分類」なのです。

「ICFの考え方（思考）」と良く言われますが、
ICFは、実は思考ではありません。

何の分類か?と言えば、障害の分類ですが、「障害」というとネガティブなイメージがあるため、肯定的な表現「生活機能」を採用したというわけです(思想的)。

元になったのは、
国際障害分類 (ICIDH) です。

今までと少し時代が変わりました

高齢者の肺炎（+）

入院して治療しましょう！
病気は、安静が一番です。

抗生素の効果で治りました。
もう、退院していいですよ。

足が弱って、歩けない
のですが？

命が助かったのです
から、・・・・・
長期入院はできません。

寝たきり
高齢者が
増える！

寝たきりで施設送り
では、誤嚥性肺炎の
併発も少くはない。

医療は果たして、これで良いのでしょうか？

今では・・・

高齢者の肺炎（+）

入院して治療しましょう！
病気は、安静が一番です。

抗生素の効果で治りました。
歩行訓練しましょう。
(回復期リハ：1－2週間)

歩けるようになった
ので自宅へ直行！

- リハビリ科 併診
1. 口腔ケア
 2. 日中には座位保持
 3. 栄養管理 (NST)
 4. 呼吸リハ (排痰)
 5. 早期に離床

本来、こうあるべきでは？



肺炎



歩けない
(歩行障害)

というモデルの存在を忘れてはならない！

国際障害分類（1980年）

(ICIDH : International Classification of
Impairment, Disability, and Handicap)

疾患（病名） → その障害は？

機能障害

Impairment

能力障害

Disability

社会的不利

Handicap



3つのレベルで
考えると理解し
やすい

例 1

「脳卒中」という疾患
→ その障害は？

多くの人が「手足の運動麻痺（片麻痺）」と答える

リハビリテーション医療では、重度の運動麻痺（片麻痺）は治らない。

→ 「リハビリテーション医療では、重度の運動麻痺（片麻痺）は治らない。」

リハビリテーション医療を行ううえで、多くの脳卒中患者の大半が歩いて帰れるようにならなければなりません。

「歩行障害」が良くなかった

では、障害とは？ 何が良くなかった？

例2

「閉塞性動脈硬化症」という疾患
下肢の壊死のため、膝下で切断術施行
→ その障害は？

「下腿切断」と答えるでしょう

リハビリテーション医療では、足ははえて来ない
→ 「リハビリテーションは無効」
でしょうか？

リハビリテーション医療では、
歩行訓練すると歩いて帰る。 -

「歩行障害」が
良くなつた

では、障害とは？ 何が良くなつた？

障害というイメージを考え直す必要がある

1. 機能障害：臓器レベル・・・身体・精神の症状

麻痺・健側筋力・関節拘縮・失語症・嚥下障害・
疼痛・・・・

2. 能力障害：能力レベル

・・・日常生活活動(ADL)障害、
手段的日常生活活動(IADL)障害、
歩行障害、コミュニケーション障害

3. 社会的不利：社会レベル

・・・社会生活上の困難

問題

脊髄に損傷を受けて感覚障害を生じた

障害レベルは → 機能障害

骨折の治療後に関節が固まってしまった

障害レベルは → 機能障害

両足が動かないので、掃除ができなくなった

障害レベルは → 足の麻痺は機能障害
IADLは能力障害

右前腕切断のために復職（事務）を拒否された

障害レベルは → 右前腕切断は機能障害
職業問題は社会的不利

問題

言語中枢が損傷を受けて書字障害を呈した

障害レベルは → 機能障害

右前腕切断によって手紙が書けなくなった

障害レベルは → 前腕切断は機能障害
書字障害は能力障害

右片麻痺によって階段が昇れなくなった

障害レベルは → 片麻痺は機能障害
階段障害は能力障害

お寺に手すりがないので階段が昇れなかつた

障害レベルは → 社会的不利

機能障害（例）

- 1) 廃用による筋力低下
- 2) 麻痺（片麻痺・対麻痺・四肢麻痺・単麻痺）
- 3) 知覚障害
- 4) 関節拘縮
- 5) 筋緊張亢進
(痙攣・固縮)
- 6) 不随意運動
- 7) 持久力低下
- 8) 切断
- 9) 变形
- 10) 失調
- 11) 疼痛
- 12) 失語
- 13) 構音障害
- 14) 失認
- 15) 失行
- 16) 嘔下障害
- 17) 視力・視野障害
- 18) 知的障害
- 19) 心理的異常
- 20) 排泄障害
(排尿・排便)
- 21) その他

能力障害（例）

1. 日常生活活動（ADL）・・・誰でも毎日

セルフケア：食事、整容、清拭、更衣上、更衣下、トイレ動作

排泄コントロール：排尿、排便

移乗：ベッド・椅子⇒車椅子、トイレ⇒車椅子、浴槽⇒車椅子

移動：移動（歩行・車椅子）、階段

2. 手段的日常生活活動（I ADL）・・・家族の (生活関連動作 APDL) の誰かが 十趣味

家事（炊事、洗濯、掃除、等）、買い物、
自動車運転、ワープロ、趣味

3. コミュニケーション能力

理解面、表出面 電話

平成30年度の介護報酬改定

通所介護にADLを評価する指標を用いた

アウトカム評価を初めて導入

「Barthel Index (バーセルインデックス)」

- 1 食事 (10・5・0)
- 2 車椅子・ベッド移乗 (15・10・5・0)
- 3 整容 (5・0)
- 4 トイレ動作 (10・5・0)
- 5 入浴 (5・0)
- 6 歩行 (15・10・5・0)
- 7 階段昇降 (10・5・0)
- 8 着替え (更衣) (10・5・0)
- 9 排便コントロール (10・5・0)
- 10 排尿コントロール (10・5)

社会的不利（例）

復職・就職

家屋改造（日本）

介護サービスの利用（介護保険）

生活環境整備

公共交通機関の利用

公共施設の利用

余暇活動への参加（社会参加）

教育を受ける

・・・・・

國際生活機能分類 (ICF: 2000年)

1) 生活機能と障害

a. Body functions & Body structures

(心身機能・身体構造)

b. Activities and Participation

(活動・参加)

2) 背景因子

c. 環境因子

d. 個人因子

「障害」を強調するのではなく、「肯定的表現」を強調

ICIDH

ICF

機能障害 = 心身機能・身体構造の異常

能力障害 = 活動の制限

社会的不利 = 参加の制約

「肯定的表現」を強調するとは？

「右手が切断されても左手の練習をすれば、
字も書けるし、貴方は歌も上手だし・・・」

ICFについて

国内外で、多くの論争がある

利点：理念は素晴らしい

障害者にも人間として出来る内容、
優れた能力がある

欠点：項目が多く（1500以上）、煩雑である

一人の障害者あたりの評価時間：長い
障害を捉えにくい

医療には使い難い。福祉でも。

ICFコアセットが登場！

健康状態群（疾病）単位で、どの項目を評価すれば良いかを取り纏めた。

現在、76種類のコアセットが準備されている。

全般：3種類

筋骨格系：18種類

呼吸循環系：12種類

神経系：18種類

その他：25種類



今後は、ICFを使った機能評価（アセスメント）を用いる時代がやって来る！

「ICFの考え方」にも触れておきます。

1. ストレングスモデル (Rappら) (個人因子強化モデル)

障害をもつ個人のストレングス (strength : 力) を強化していくこと (エンパワメント) が社会生活を営むのに重要とする考え方

2. サーカムスタンスマodel (環境因子強化モデル)

障害者を取り巻く環境を整備 (バリアフリー化や差別解消) することが個人のエンパワメントに関与するとの考え方